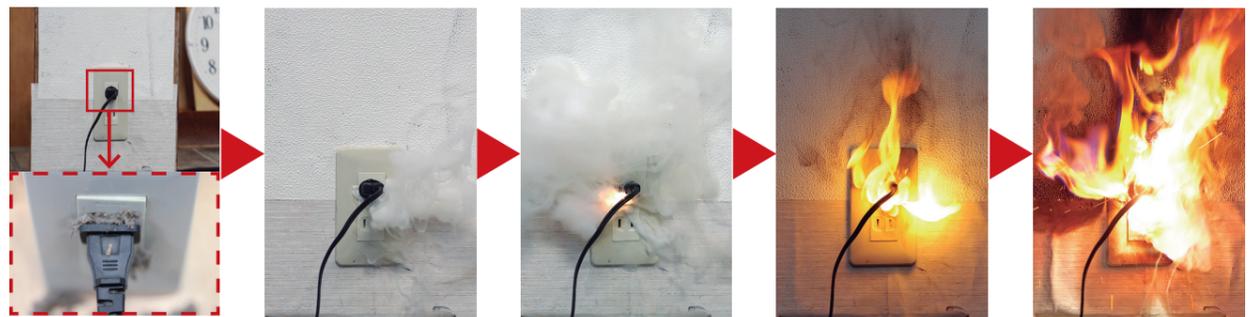


火を使わなくても起きる火災

火やガスを使っていなくても電気が通っている限り、火災が発生しないとは言い切れません。火災件数は年々、減少傾向にあります。電気関係の火災はあまり減っていません。

電気プラグによる火災原因の実験



※湿気を含んだホコリを放置すると、火災の原因となります。

私たちが日々の生活で使用している電気製品には、常に火災の危険があることを意識してください。プラグを定期的に清掃する等、少し気を付けるだけで多くの電気火災は未然に防ぐことができます。電気コードを家具の下敷きにしたり、束ねたりしていないかも含め、今一度、自宅にある電気製品やコンセントの確認をお願いします。

逃げ遅れを防ぐには住宅用火災警報器

住宅火災によって亡くなられた方のうち、約7割が65歳以上の高齢者です。また、死因の多くは逃げ遅れによるものとされています。火災による逃げ遅れを防ぐためにも、住宅用火災警報器の設置が重要となります。

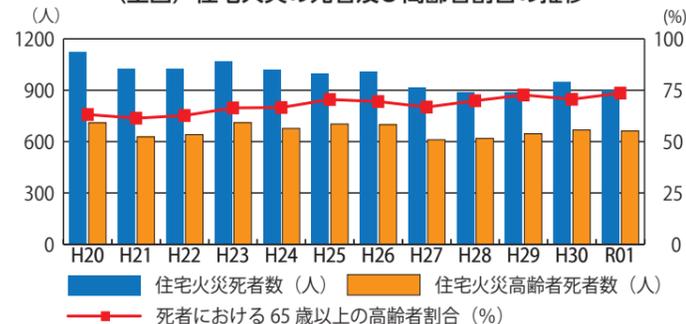
天井設置タイプ



壁設置タイプ



(全国) 住宅火災の死者及び高齢者割合の推移



設置から10年以上たってしまったら?

電池の寿命は、長いもので10年ですが、短いものもあります。電池が切れたことに気づかず放っておくと火災が発生した時に作動しないので、定期的に作動確認をしましょう。なお、10年経過した警報器は取り換えることをおすすめします。

詳しくは消防局予防課予防係 ☎871-7504へ

火災調査という仕事について

この仕事は、未来の火災予防のため、火災現場に残された焼け跡から、なぜ火災になったのかを調査するものです。火災は大規模な場合でも出火原因は小さなものであったり、偶然に偶然が重なって発生することが多く、「こんなことで火災になるのか」と思うことも少なくありません。そのため、再現実験や鑑識を行い、火災原因を究明できた時には、とてもやりがいを感じる仕事です。私たちは「明日の火災をなくすため!」を合言葉に、火災調査という仕事に向き合っています。



高知市消防局には、大小問わずさまざまな火災から、原因を究明することを目的に活動する「火災調査係」があります。今回は、火災原因を調査することによって同類の火災を予防する活動や、その活動を支える設備、また、日常の中にある火災原因について紹介します。

写真：火災原因と考えられる物品の分解調査

消防局鑑識室

火災調査係が火災原因を調べるために鑑識や再現実験をしている執務室です。



- 超音波カッター
焼けた物を切断・分解することで、内部の状況が確認できます。
- X線透過装置
焼けた物を破壊することなく、内部の状況等が確認できます。
- 実体顕微鏡
火災原因に結び付く特徴的な焼け方が、より鮮明に確認できます。
- 温風ヒーター
焼けた物に付着した樹脂部分を温め剥がすことで、より詳細に焼けた状態を確認できます。
- 実験室
実際に起きた火災の再現実験や火災事例検証のため、実験を行う部屋です。

